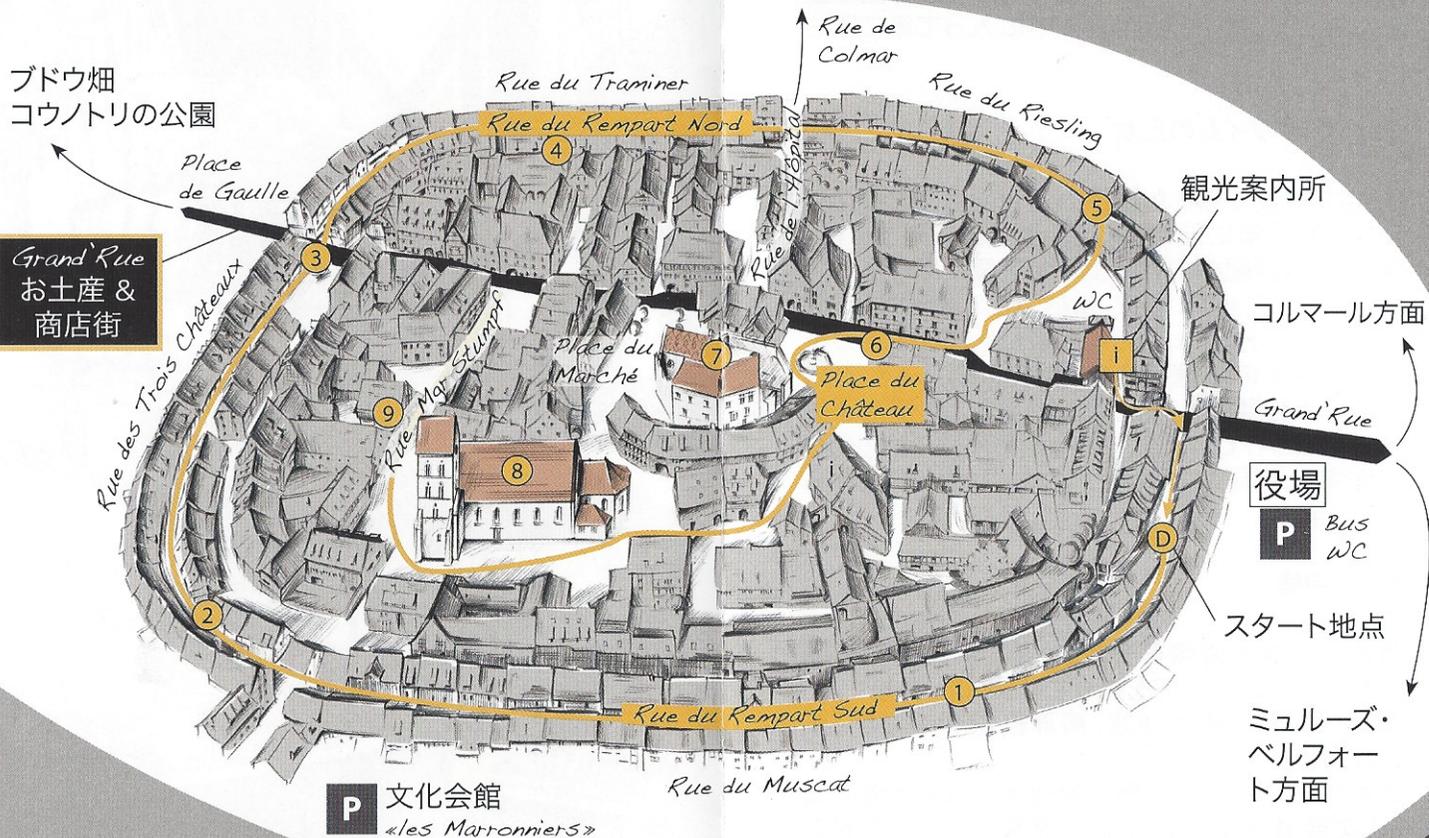


見学ルート

テーマ毎にイラスト化された9つの情報パネルを辿ってみましょう。

- D Le pigeonnier (スタート地点)
- 1 エギサイムの特色
- 2 エギサイムと同心円
- 3 町の扉
- 4 様々な碑銘
- 5 石に刻まれた文字
- 6 宮殿
- 7 礼拝堂
- 8 エギサイムの乙女
- 9 中庭



1 エギサイムの特色

このブドウ畑に囲まれた家々は石材を土台とした木造建築を特徴としています。木材は煤や酸化鉄から守る役目を果たし、16世紀まで木骨組積造りの家 (colombage) は現在のように色とりどりでありませんでした。17世紀には窓枠が大きくなり、木の骨組みは外装のアクセントとなりました。19世紀から20世紀にかけてセメントで外装を覆うのが風情とされていましたが、数十年後、木の骨組みは剥き出しとなりました。そして現在、色付けされたパレットのような家々がアルザスを象徴しています。

2 エギサイムと同心円

この村はとても特徴的な形をしています。2つの城塞が楕円形を描いて建立されました。軍事的には適していませんでしたが、合理的にはとても良く配置されていました。旧城塞間は農業設備や新たな道路開拓に利用されました。16世紀頃から外側の城塞の高さは住居を支える為に低くなり、現在ではこの城壁に沿ってcolombageの家々が建っています。もしかしたら、路地を歩いているうちに一周して再びここに辿り着くかもしれません。まさに、同心円ならではのですね。

3 町の扉

エギサイムの村には城塞の出入り口跡が2つ残されています。その1つはブドウ畑に行きやすいようにできています。4世紀にローマ人によって初めてワイン用のブドウの苗がエギサイムに植えられました。その頃からブドウ栽培者は先祖代々、真摯な思いで経験を積み重ね、技術を発達させました。その特級ワインの品質は他では類を見ないものです。また、エギサイムはライン川に沿う南北の経済の軸でもあります。19世紀に破壊されるまで、町の扉が人々の出入りを規制する中心的な役割を果たしていました。